

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700281		
法人名	医療法人光佑会		
事業所名	グループホームじゃんがら		
所在地	長崎県平戸市浦の町730番地1		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度より看取り介護を実施し、現在までに3件の症例を経験している。現在入居してもらっている入居者からも希望を受けてる。今年の10月にもお一人お看取りを行い、ご家族も「安らかな顔をしている」と大変喜ばれていた。 同法人に医療機関、介護老人保健施設、特定施設入居者生活介護を有し、入居者の状態異常時や身体機能の低下時にスムーズに対応する事が出来る。 週三回協力病院でのリハビリを行っており、身体機能の維持に努めている、入居者もリハビリを楽しみにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの周囲には商店街や観光施設がある風光明媚な場所に立地している。同法人の母体病院が隣接しており、定期的な訪問診療や、急変時の往診も可能で、入居者は安心して生活が送れている。母体病院の協力もあり、ホームとして看取り支援に力を入れており、看取り指針の整備や研修会の開催のほか、看取り支援後には職員間で振り返りを行うことで支援方法の明確化に繋げ、入居者が住み慣れたホームで最期まで暮らすことができている。職員はホームの理念に基づき年間の目標を設定し、設定した目標からさらに細かく行動目標を設定しており、理念に沿ったケアが実践されている。希望休暇の柔軟な取得に加え、有給休暇の取得もできている為、職員がやりがいと楽しみを持って働くことができる職場環境を整備している。職員は入居者へ家族のように接し、可能な限り入居者・家族の要望にも対応していけるよう取り組んでいるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームじゃんがら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を唱和し、意識付けしている。 「明るく、楽しく、美しく」を意識している。	理念である「明るく、楽しく、美しく、和を大切に地域の方々との触れ合いを支援する。」を基に、ホームの年間目標を設定している。設定した目標からさらに細かく職員の行動計画を決めている。職員は日々行動計画を振り返りながら理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶や地域行事へ参加し交流を持っている。	コロナ禍以前は、初任者研修受講者の実習受け入れや、地域の商工会が主催する軽トラ市へ参加するなど交流していた。現在は地域住民との交流を自粛しているが、昨年、感染状況が落ち着いた時期に、感染対策を行った上で平戸くんちのおくだりの見学を行うなど、可能な範囲で地域との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の初任者研修の受け入れ時などに知識や経験を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年は、コロナの影響で書面による会議の開催となっている。 その際に委員から意見があれば、その都度会議などで報告している。	コロナ感染予防の為、運営推進会議は書面で会議を行っている。委員より聴取した意見はホームでの対応策を検討し、委員へ回答している。入居者の家族にも運営推進会議議事録を配布し、ホームの状況を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、加算等での相談を行い連携を取っている。 定期的に入居、退居の連絡を行っている。	市の職員が運営推進会議に参加し、日常的に意見交換や相談ができる関係を築き、市との連携に努めている。相談がある場合は必要に応じて管理者が直接窓口へ出向き話をしており、密な連携を図っている。市が主催する研修会に職員が参加し情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束、高齢者虐待、尊厳に関する内部研修を必ず開催している。 3か月に一度身体拘束委員会を開催し、身体拘束の予防に取り組んでいる。	毎年、身体拘束や虐待について内部研修会を行い、職員のスキルアップに努めている。時折強い口調が聞かれる事もあるが、その都度管理者や職員同士で注意し合いながら改善に努めている。徘徊する入居者に対して、無理に引き止めず、落ち着くまで職員と一緒に歩くなど本人の行動を押し止さない対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束、高齢者虐待、尊厳に関する内部研修を必ず開催している。 感情的にならないように、自分をコントロールする事を意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作っており、金銭の管理等権利擁護事業を活用されているご利用者も多くいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項について丁寧に説明を行っている。事業所で出来る事、出来ない事についても十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族に日頃の様子を報告し、意見や苦情については職員が共有し検討している。対応、改善の経過や結果を伝えるようにしている。	面会時や電話などを通じて家族の要望を伺っている。ホームの運営に関して要望が挙げた場合には、他の家族へアンケートを実施し、検討の上必要に応じて運営に反映している。昨年、家族より支払方法を引落しにして欲しいとの要望があり、対応した実績がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、全体会議を開き意見交換の場を設けている。利用者との日常の関わりの中で起きる気づきやアイデア等を運営に取り入れている。	管理者が職員と個別で面談する機会は特に設けていないが、業務に関する事項や必要な物品の購入など、その都度管理者と相談できる環境である。職員のキャリアアップに伴う資格取得に際し、必要な受講費用の補助や、資格取得時には金一封が出すなどバックアップがあり、職員のスキルアップに協力的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力、成果を把握している。職場環境や条件について具体的に工夫、配慮するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回の会議でも定期的に内部研修を開催している。その他、職員の立場、経験、習熟度に応じて人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設と情報交換を行い、ネットワーク作りを行っている。制度改正時等にも情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族に聞き取り調査を行いご本人の思いや、不安を知り、困っている事、何を求めているのかその方を良く見て安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り調査をしっかりと行い、本人と家族の課題の違いを把握し、不安を軽減できるようにしている。 家族の要望とご利用者の要望に違いがある場合もあり、しっかりと家族と話し合う機会を作り、課題の解決を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援で、できる事はすぐに実践し、検討が必要な場合でも話し合いを重ね支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を手伝って頂き、一緒に作業を行い、感謝の気持ちを表している。生活文化、技などを教わる場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診結果、近況など面会時、電話等で報告し密接な関係づくりに努めている。 入居時にはご家族に共に入居者を支える旨を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも、地元の感染状況に応じて、ビニールカーテン越しでの面会を継続している。 電話などでも交流してもらっている。	コロナ禍にて馴染みの人との面会制限はあるが、母体病院等にてPCR検査を行えばホーム内で面会する事も可能である。以前は墓参りや外泊の支援も行っていた。入居者の家族や知人との手紙のやり取りを行うなど馴染みの関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、利用者同士が不快感を持たず関わりあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても地域で会えば挨拶、会話をしサービス利用時に培われた関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中での表情や行動を観察し、行動記録などで本人の言葉や行動を記録している。 会議の際に、本人や家族意向などを全職員で共有し、統一したケアが出来るように努めている。	職員は入居者との日頃の会話を通して思いの把握に努めている。家族には管理者が毎月電話で意向を確認している。把握した情報は毎日の申し送りや、毎月の会議にて職員間で共有している。年に3回広報誌を発行して家族へ送付し、ホームでの入居者の様子を伝えている。	家族へ電話連絡を随時行っているが、状態報告になる事が多い。入居者の思いや暮らし方の希望、意向の把握には家族より協力を得ながら本人の視点に立って意見を出し合い話し合っていくことが求められる。その人らしい暮らしや力の発揮に繋げる為にも、遠慮しがちな家族に対しても率直な思いや意向を聞き出せるよう工夫することに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など家族から情報を得て、一人ひとりの個性、価値観等を把握し、職員で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を活用し心身状態の把握。できる事、できない事を見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が作成したアセスメント表を基にユニット会議で職員で意見交換を行い家族の意向を含め介護計画書を作成している。	介護計画は半年に1回の頻度で見直すことを基本とし、本人の状態変化時にはその都度見直しを行っている。職員を入居者毎に担当制とすることで、担当職員が入居者の状態をより深く把握し、会議で情報を共有する事により、入居者の現状に沿った介護計画の作成とケアの実施に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を記入し、情報を共有している。それを基に介護計画の見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の行動や生活パターンを関わりの中から把握し、得意不得意や好きな事や嫌いな事など見極めながら、レクリエーションなど、生活支援に活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭に出展する作品を一年掛けて準備し展示していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、医療機関を受診できるように支援している。日頃の生活状況を情報提供している。 受診結果は職員全員が把握するように努めている。	ホームは入居前のかかりつけ医を継続して受診する事も可能であるが、ホームの協力医であれば、毎月の訪問診療を受けることができることから、かかりつけ医をホームの協力医へ変更する方が多い。必要時には往診にも対応しており、入居者・家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職で情報を共有し、話し合いをしながら受診時に状況を適切に伝えられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供書を作成し状況、特徴などを伝えている。医療機関、家族と情報交換し、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今現在での最期の時を迎えたい場所の確認を行っている。希望があれば看取り介護も提供している。	看取りに関する指針を整備し、看取りの内部研修会も開催している。直近では昨年10月に看取りを行った実績がある。看取り終了後には振り返りシートを活用し、職員自ら改善点などを抽出して共有するなどのほか、職員の精神的負担へのアフターフォローも行い、チームによる連携した支援に繋がるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正常時の状況をしっかりと把握し、いつもの違いに気付く事を意識する事で予測する力を増やしあらゆる可能性を考え検討している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防設備を整え、定期的に避難訓練を実施している。備蓄品を準備し、天候が崩れる恐れがある場合は、情報収集をし備える事を意識するようにしている。	避難訓練には、全職員が交代で参加できるよう勤務を調整している。ホームが4階である為、重度化した方は担架を用いて階段を使用した搬送を想定している。コロナ禍前は地域の消防団員と協力して訓練を実施していた。コロナ収束後は消防団員との訓練を再開する意向である。	近年、自然災害が多発している事を踏まえ、火災だけではなく風水害や地震等の自然災害を想定した訓練を実施する事が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格や趣味嗜好などを日々の関わりから理解を深め、一人一人が笑顔で穏やかに生活してもらうような関わり方、よるこびを感じてもらえるような関わりを図っている。	排泄時にはドアを閉める、訪室時はノックをする、入居者への手紙は個人の居室にて手渡すなど、基本的ではあるが大切な行為であるとの認識を持ちケアを行っている。職員は方言をできるだけ使用せずに、標準語(丁寧語)で声掛けを行うよう心がけている。	全職員が一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことが、入居者の尊厳と権利を守るための基本である。コロナ禍にて職員は接遇研修に参加できていない為、職員が参加できなかった研修(接遇研修等)を、次年度の年間研修(勉強会)計画に組み込むなど、今後の計画的に取り組むことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な生活の場面で、自己決定できる機会を作っている。利用者の表情や反応を見ながら本人が選びやすい場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の身体状況や気分に合わせて一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚染等プライドを傷付けないようにさりげなくカバーしている。定期的に美容師免許を持った職員が散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日の献立を見やすい所に掲示している。トロミ、刻み食の方でも食欲が湧くように見た目なども工夫している。	食事は、週に4日間はホームで調理し、残り3日間は同法人厨房により提供されている。茶碗や湯飲み、箸などは入居者の馴染みの物を使用し、誕生日には地域の菓子屋の和菓子を提供するなど、入居者が食事を通した楽しみを持てるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事、水分量の摂取量を記録し、一人ひとりの常態に合わせ、食事形態の変更などを検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、義歯の管理を行っている。週3回義歯の消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄を記録し、排泄パターンから起きる不穏や意識消失などの症状を記録し、便秘にならないように医療機関とも相談しながら、その人に応じた排泄支援を行っている。	入居者個人の排泄パターンを把握し、間隔を確認しながら声掛け・誘導を行っている。リハビリパンツやオムツなどの使用具は、職員同士で意見を交換しながら入居者の状態に応じた用具を使用し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、自然排便を促す工夫をしている。下剤等の使用は個々の状況に合わせて病院と相談の上対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回入浴の支援を行っている、入りたくないという利用者に対しては清拭にて対応している。	入浴は週2回(月・金)を基本としている。排泄による汚染時には適宜シャワー浴を使用するなどその都度対応し、入居者の清潔が保てるよう支援している。職員は入浴時に全身状態を観察し、必要時には皮膚科を受診し軟膏を塗布したり、保湿剤などを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に好きな時間に休息をとれるようにしている。 室温や寝具などの環境を整え安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬の内容を把握しやすいように工夫し、把握に努めている。状況の変化を記録し家族に報告、医師に相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持っている力でできる作業をして頂いている。洗濯物たたみなど役割を持って行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか実施できていないが、病院受診や検査に行く際は、季節を感じられるようにしている。	コロナ禍にて外出が難しい状況ではあるが、近隣にある母体病院の裏が桜通りになっており、受診時に歩行して本人に季節を感じてもらえるよう支援している。管理者はコロナ禍収束後には弁当を持ってドライブに出かけられるよう計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら利用者一人ひとりに合わせた金銭管理を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、携帯電話が使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間等のおいなどにも気を付けるようにして、気持ちよく過ごしていただけるように努めている。ホーム内には季節の物の作品を飾ったりしている。	共有空間の清掃は、毎日モップ(クイックルワイパー)掛けを行い、感染対策として不必要な物は置かない、使い捨ての物を使用するなど清潔保持を徹底している。以前は季節の作品を入居者と職員が一緒に作成し、飾っていた。管理者は、コロナ収束後には入居者と職員が一緒に作品を作ることを再開する意向である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子などを設置し個々が好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ってきていただくように家族には説明して、自宅に近い雰囲気が出せるように努めている。 自宅で使っていたなじみの物を持ってきてもらうなど、自宅と同じ雰囲気が出るように工夫している。	居室にはテレビやコタツなど本人の馴染みの物を持ってきてもらい、入居者の状態を踏まえて相談しながら物品を配置するなど、居心地が良い空間づくりを心がけている。居室は毎日の清掃に加え、手で触れる部分を除菌シートで消毒を行い、感染予防を徹底している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるように手すりを設置しており補助具を使用し移動できるスペースを確保している。		